

(様式1)

令和8年度幼稚園・認定こども園・保育所等における県産有機農産物等理解醸成支援事業
事業計画書（変更計画書）

「8」を記入

令和 年 月 日

兵庫県知事様

募集期間内(令和8年5月20日～
6月22日)の提出日を記入

団体名
代表者名 有機 太郎
住 所 神戸市中央区下通
5-10-1
電話番号 000-0000-0000
E-mail ryutu@yuuki.co.jp

幼稚園・認定こども園・保育所等における県産有機農産物等理解醸成支援事業実施要領
(令和8年4月14日付け流第1068号)第8の規定に基づき、関係書類を添えて別記のと
おり提出します。

[添付書類]

- ・収支予算書（様式2）
- ・応募者の概要が分かる資料（定款、規約、組織図、名簿、活動報告等）
- ・その他、必要と認められるもの

個人の場合の定款規約組織図名簿は不要

講話の場合

(様式1別記)

1 応募者の概要

※該当しない箇所は記載不要

名称	有機 太郎		
所在地	〒650-8567 神戸市中央区下山手通 5-10-1		
代表者	流通 太郎		
設立	昭和・平成・令和 20年4月10日設立		
法人格	あり（昭和・平成・令和 年 月取得）・なし		
構成員数	給食に限らず記載		
活動状況	令和元年11月11日に有機JASを取得し、神戸・明石を中心に米や野菜を栽培している。特に、消費者とのふれあいを大切にし、神戸市内や近隣市町で開催のマルシェに毎週参加。技術研さんのため、月1回の研修会を普及センターに協力いただいて実施している。 有機農産物取り扱い実績 お米 〇〇〇〇kg JA☆や、(株)☆☆へ出荷している。		
担当者 連絡先	氏名	有機 太郎	
	電話番号	080-0000-0000	FAX 078-000-0000
	E-mail	ryutumarumar@yuukimaru.co.jp	

2 提案事業の概要

(1) 事業内容

(1) 学習機会の提供 (いずれか一つ以上選択し○で囲んで下さい)	(2) 食事機会の提供 (いずれか一つ以上選択し○で囲んで下さい)
<input checked="" type="checkbox"/> ア 講話(主な対象を3歳以上の園児とする)	<input checked="" type="checkbox"/> ア 教育・保育施設における給食への有機農産物等の供給
<input type="checkbox"/> イ 講話(主な対象を3歳未満の園児とする)	<input checked="" type="checkbox"/> イ 保護者に向けた有機農産物等を購入する機会の提供
<input type="checkbox"/> ウ 産地学習会	
<input type="checkbox"/> エ 教育・保育施設内での栽培体験	
<input type="checkbox"/> オ 調理または加工体験	

ア 学習機会の提供

(ア) 実施予定時期

8月10月

(イ) 実施予定場所

保育園内

(ウ) 対象および参加人数(主な対象の園児の年齢)

3～6歳児 40人

(エ) 手法

お話

(オ) 回数

2回

(カ) 取り組む学習内容

※下記①～⑤のうち、いずれか1テーマ以上を選択し、学習内容の要旨を記載すること

① 有機農業や有機農産物等の特徴及び本事業において有機農産物等を提供する生産者の紹介

8月の講義では、自己紹介をした後に、ほ場の写真を示しながら、どうしてお米や野菜を作る農家になったのかのお話をします。

「以前は企業に勤めており、農業とは無縁の生活をしていましたが退職後に孫のアレルギーがきっかけで、農業に興味を持つようになった。

今は、お米や野菜、特にさつまいもなどを主に作っていてわかったのは、お野菜さんと虫さんがとっても仲良く助け合っていることが大事だとお話をわかりやすく楽しく話をする。」

② 脱炭素や生物多様性などの環境保全と有機農業について

10月の講義では、地球温暖化の問題と農業への影響を中心に取り上げる。

地球温暖化により、この夏はとっても暑かったため、枝豆の花が落ちてしまつて実がつかなくなったり、おいしいお米が育たなかったりすることを、ほ場の写真を用いながら説明し、地球温暖化が農業に与える影響への理解を促し、自分たちにできることを考えてもらう意識づけを行う。

「地球の気温がぐんぐん上がっていつている、これは、たとえば、車を使ったり、電気をつかったりすると、地球をあたためるものがたくさん発生して、気温がぐんぐん上がってしまうことになる。そうすると、おこめや野菜が育ちにくくなっていることもつながっている。だから少しずつみんなが便利な生活の中でも工夫できることをやっていくことが大事になる。エアコンのフィルターをきれいにしたり、省エネのものを使ってみたりするところから始めてみて、お米やお野菜さんを助けよう！」

③ ほ場見学などの産地学習

8月のほ場見学では、田んぼを見て、稲の花を探してもらったり、雑草抜きをしてもらったり、生き物探しもしてもらって、農薬をあまり使わないことから多様な生物達が田んぼで暮らしていることを理解を促す。

10月のほ場見学では、枝豆の収穫体験をしてもらい、さやもぎにもチャレンジしてもらい、さやや豆のにおいや感触などを五感で感じ取ってもらう。

④ 栽培や調理・加工等の体験

⑤ その他

イ 食事機会の提供

※下記(ア)と(イ)のうち、1つ以上を選択し、実施内容を記載すること

(ア) 給食における有機農産物等の提供（品目ごとに記載）

① 品目

お米

② 時期および回数

12月8日 1回

③ 1回あたりの数量(kg)

5kg

(イ) 保護者向け有機農産物等を購入する機会の提供

① 品目

お米や野菜

② 時期および回数

12月8日 1回

③ 手法

マルシェ

(2) 実施期間 令和8年8月1日～ 令和9年1月20日

(3) 実施体制

(実施にあたり協力する団体や連携する教育・保育施設との関係、役割分担が分かるように記載)

ア 連携する教育・保育施設名

はばタン保育園

イ 役割分担

	名称	役割分担
応募者		米と野菜の生産 園への配送 講義の実施
幼稚園・認定こども園・保育施設等		給食の調理 講義の会場提供 園児への事前説明

(4) 事業実施により期待される効果

- ・給食での有機農産物の使用にあたっての課題抽出とその解決策の検討ができる。
- ・次年度以降の継続的な取組へつなげるマッチングができる。
- ・「地球温暖化」や「生物多様性」、「農業」や「有機農産物」、「食の大切さ」について園児や保護者の理解醸成が進む。
- ・「食」を通じた絆が育める。

(5) これまでの同種の活動実績やこれからの実施予定など、参考になるものがあれば記載してください。

- ・ CSA の実施 (米、にんじん、じゃがいも、たまねぎ)
- ・ 農業インターンシップの受け入れにより、農作業体験を通じた自分の適性、意欲を再確認してもらい取り組みを随時実施
- ・ 地域おこし協力隊と協力し、集落の畔草刈りの実施

(6) その他参考となる特記事項があれば記載してください。

- ・ 兵庫楽農生活センター有機農業塾に参加し仲間と交流し技術研さんに尽力している。

1 応募者の概要

※該当しない箇所は記載不要

名 称	有機 太郎		
所 在 地	〒650-8567 神戸市中央区下山手通 5-10-1		
代 表 者	流通 太郎		
設 立	昭和・平成・令和 20 年 4 月 1 0 日設立		
法 人 格	あり (昭和・平成・令和 年 月取得)・なし		
構 成 員 数	給食に限らず記載		
活 動 状 況	<p>令和元年 11 月 11 日に有機 JAS を取得し、神戸・明石を中心に米や野菜を栽培している。特に、消費者とのふれあいを大切にし、神戸市内や近隣市町で開催のマルシェに毎週参加。技術研さんのため、月 1 回の研修会を普及センターに協力いただいて実施している。</p> <p>有機農産物取り扱い実績 お米 ○○○○kg JA☆や、(株)☆☆へ出荷している。</p>		
担 当 者 連 絡 先	氏 名	有機 太郎	
	電話番号	080-0000-0000	FAX 078-000-0000
	E-mail	ryutumarumar@yuukimaru.co.jp	

2 提案事業の概要

(1) 事業内容

(3) 学習機会の提供 (いずれか一つ選択し○で囲んで下さい)	(4) 食事機会の提供 (いずれか一つ選択し○で囲んで下さい)
ア 講話(主な対象を3歳以上の園児とする)	ア 教育・保育施設における給食への有機農産物等の供給
イ 講話(主な対象を3歳未満の園児とする)	イ 保護者に向けた有機農産物等を購入する機会の提供
ウ 産地学習会	
エ 教育・保育施設内での栽培体験	
オ 調理または加工体験	

ア 学習機会の提供

(ア) 実施予定時期

8月10月

(イ) 実施予定場所

神戸市西区のほ場

(ウ) 対象および参加人数(主な対象の園児の年齢)

3～6歳児 40人

(エ) 手法

収穫体験とお話

(オ) 回数

2回

(カ) 取り組む学習内容

※下記①～⑤のうち、いずれか1テーマ以上を選択し、学習内容の要旨を記載すること

① 有機農業や有機農産物等の特徴及び本事業において有機農産物等を提供する生産者の紹介

② 脱炭素や生物多様性などの環境保全と有機農業について

③ ほ場見学などの産地学習

8月のほ場見学では、田んぼを見て、稲の花を探してもらったり、雑草抜きをしてもらったり、生き物探しもしてもらって、農薬をあまり使わないことから多様な生物達が田んぼで暮らしていることを理解を促す。

10月のほ場見学では、枝豆の収穫体験をもらい、さやもぎにもチャレンジしてもらい、さやや豆のにおいや感触などを五感で感じ取ってもらう。

④ 栽培や調理・加工等の体験

⑤ その他

イ 食事機会の提供

※下記(ア)と(イ)のうち、1つ以上を選択し、実施内容を記載すること

(ア) 給食における有機農産物等の提供(品目ごとに記載)

① 品目

お米、枝豆

② 時期および回数

12月8日 1回

③ 1回あたりの数量(kg)

お米20kg 枝豆1kg

(イ) 保護者向け有機農産物等を購入する機会の提供

① 品目

② 時期および回数

③ 手法

(2) 実施期間 令和8年8月1日～ 令和8年12月20日

(3) 実施体制

(実施にあたり協力する団体や連携する教育・保育施設との関係、役割分担が分かるように記載)

ア 連携する教育・保育施設名

はばタン保育園

イ 役割分担

	名称	役割分担
応募者		米と野菜の生産 園への配送 産地学習園の準備 講義の実施
幼稚園・認定こども園・保育施設等		給食の調理 講義の会場提供 産地学習園への児童の送迎 園児への事前説明

(4) 事業実施により期待される効果

- ・給食での有機農産物の使用にあたっての課題抽出とその解決策の検討ができる。
- ・次年度以降の継続的な取組へつなげるマッチングができる。
- ・「地球温暖化」や「生物多様性」、「農業」や「有機農産物」、「食の大切さ」について園児や保護者の理解醸成が進む。
- ・「食」を通じた絆が育める。

(5) これまでの同種の活動実績やこれからの実施予定など、参考になるものがあれば記載してください。

- ・CSAの実施（米、にんじん、じゃがいも、たまねぎ）
- ・農業インターンシップの受け入れにより、農作業体験を通じた自分の適性、意欲を再確認してもらう取り組みを随時実施
- ・地域おこし協力隊と協力し、集落の畔草刈りの実施

(6) その他参考となる特記事項があれば記載してください。

- ・兵庫楽農生活センター有機農業塾に参加し仲間と交流し技術研さんに尽力している。

1 応募者の概要

※該当しない箇所は記載不要

名 称	有機 太郎		
所 在 地	〒650-8567 神戸市中央区下山手通 5-10-1		
代 表 者	流通 太郎		
設 立	昭和・平成・令和 20年4月10日設立		
法 人 格	あり (昭和・平成・令和 年 月取得)・なし		
構 成 員 数	給食に限らず記載		
活 動 状 況	<p>令和元年11月11日に有機JASを取得し、神戸・明石を中心に米や野菜を栽培している。特に、消費者とのふれあいを大切にし、神戸市内や近隣市町で開催のマルシェに毎週参加。技術研さんのため、月1回の研修会を普及センターに協力いただいて実施している。</p> <p>有機農産物取り扱い実績 お米 〇〇〇〇kg JA☆や、(株)☆☆へ出荷している。</p>		
担 当 者 連 絡 先	氏 名	有機 太郎	
	電話番号	080-0000-0000	FAX 078-000-0000
	E-mail	ryutumarumar@yuukimaru.co.jp	

2 提案事業の概要

(1) 事業内容

(5) 学習機会の提供 (いずれか一つ以上選択し○で囲んで下さい)	(6) 食事機会の提供 (いずれか一つ以上選択し○で囲んで下さい)
ア 講話(主な対象を3歳以上の園児とする) イ 講話(主な対象を3歳未満の園児とする) ウ 産地学習会 エ 教育・保育施設内での栽培体験 ㊦ 調理または加工体験	㊦ 教育・保育施設における給食への有機農産物等の供給 イ 保護者に向けた有機農産物等を購入する機会の提供

ア 学習機会の提供

(ア) 実施予定時期

8月10月

(イ) 実施予定場所

保育園内

(ウ) 対象および参加人数(主な対象の園児の年齢)

3～6歳児 40人

(エ) 手法

調理教室

(オ) 回数

2回

(カ) 取り組む学習内容

※下記①～⑤のうち、いずれか1テーマ以上を選択し、学習内容の要旨を記載すること。

- ① 有機農業や有機農産物等の特徴及び本事業において有機農産物等を提供する生産者の紹介
- ② 脱炭素や生物多様性などの環境保全と有機農業について
- ③ ほ場見学などの産地学習
- ④ 栽培や調理・加工等の体験
有機JASの新米で枝豆おにぎりづくり教室を開催
- ⑤ その他

イ 食事機会の提供

※下記(ア)と(イ)のうち、1つ以上を選択し、実施内容を記載すること

(ア) 給食における有機農産物等の提供(品目ごとに記載)

① 品目

お米、枝豆

② 時期および回数

10月

③ 1回あたりの数量(kg)

お米20kg 枝豆1kg

(イ) 保護者向け有機農産物等を購入する機会の提供

① 品目

② 時期および回数

③ 手法

(2) 実施期間 令和8年8月1日～ 令和8年12月20日

(3) 実施体制

(実施にあたり協力する団体や連携する教育・保育施設との関係、役割分担が分かるように記載)

ア 連携する教育・保育施設名

はばタン保育園

イ 役割分担

	名称	役割分担
応募者		有機 JAS での米と枝豆の生産 園への農産物の配送 調理教室の準備 講義の実施
幼稚園・認定こども園・保育施設等		調理教室の会場等の提供 園児への事前説明

(4) 事業実施により期待される効果

- ・給食での有機農産物の使用にあたっての課題抽出とその解決策の検討ができる。
- ・次年度以降の継続的な取組へつなげるマッチングができる。
- ・「農業」や「有機農産物」、「食の大切さ」について園児や保護者の理解醸成が進む。
- ・「食」を通じた絆が育める。

(5) これまでの同種の活動実績やこれからの実施予定など、参考になるものがあれば記載してください。

- ・CSAの実施(米、にんじん、じゃがいも、たまねぎ)
- ・農業インターンシップの受け入れにより、農作業体験を通じた自分の適性、意欲を再確認してもらい取り組みを随時実施
- ・地域おこし協力隊と協力し、集落の畔草刈りの実施

(6) その他参考となる特記事項があれば記載してください。

- ・兵庫楽農生活センター有機農業塾に参加し仲間と交流し技術研さんに尽力している。

令和8年度幼稚園・認定こども園・保育所等における県産有機農産物等理解醸成支援事業
収支予算書

「8」を記入

応募者名 有機 太郎

1 収入の部

科目	金額 (円)	内 訳
委託料	70,000	
自己負担金	20,000	
給食への販売収入	10,000	
保護者への販売収入	0	
その他	0	
計	100,000	

※ 科目は、委託料、自己負担金、給食への販売収入、保護者への販売収入、その他に分けて記載すること

2 支出の部

科目	金額 (円)	内 訳
1 共通経費		
連絡調整打合せ費	10,000	
見本野菜費	2,000	
小計 (a)	12,000	
2 学習機会の提供に要する経費		
報償費	24,000	8,000円×3時間
講演資料作成	40,000	1枚5,000円×8枚
見本野菜	5,000	
旅費	2,000	
小計 (b)	71,000	
3 食事機会の提供に要する経費		
配送料	10,000	
旅費	2,000	
食材費差額	5,000	米1,000円×5k
小計 (c)	17,000	
合計 (a+b+c)	100,000	

※ 収支の計は一致すること

※ 内訳には、経費の内容と金額を記入すること

令和8年度幼稚園・認定こども園・保育所等における県産有機農産物等理解醸成支援事業
収 支 予 算 書

「8」を記入

応募者名 有機 太郎

1 収入の部

科 目	金額 (円)	内 訳
委託料	70,000	
自己負担金	20,000	
給食への販売収入	10,000	
保護者への販売収入	0	
その他	0	
計	100,000	

※ 科目は、委託料、自己負担金、給食への販売収入、保護者への販売収入、その他に分けて記載すること

2 支出の部

科 目	金額 (円)	内 訳
1 共通経費		
連絡調整打合せ費	10,000	5,000×2回
見本野菜費	2,000	
小計 (a)	12,000	
2 学習機会の提供に要する経費		
報償費	24,000	8,000円×3時間
講演資料作成	40,000	1枚5,000円×8枚
調理用米・野菜費	5,000	
旅費	2,000	
小計 (b)	71,000	
3 食事機会の提供に要する経費		
配送料	10,000	
旅費	2,000	
食材費差額	5,000	米1,000円×5k
小計 (c)	17,000	
合計 (a+b+c)	100,000	

※ 収支の計は一致すること

※ 内訳には、経費の内容と金額を記入すること